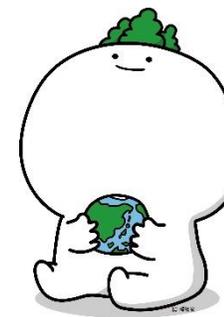




生物多様性の価値評価に関する 今後の方針検討について

令和 7年 9月
環境省自然環境計画課



1. 検討体制等

- 日本をはじめとするアジア・モンスーン地域特有の二次的な自然のもつ価値が適切に評価できるよう、令和7（2025）年度から本検討会において「生物多様性の価値評価手法の基本的な考え方（仮称）」を検討。
- 来年度以降、価値評価手法（メトリクスや基盤データ）の具体的検討や、自然共生サイトにおける価値評価手法の試行に取り組む際の基礎とする。
- 環境省は検討会のもとモデル事業等を通じて政策的検討を行う。国環研は評価手法の開発等を行う。
- 先行する取組や国際的な状況等も踏まえながら柔軟に検討を進める。今後オープンな産学連携体制の構築も必要。

〈検討体制〉

価値評価検討会



我が国の自然の特徴を踏まえた生物多様性の価値評価手法の確立に向けた議論・検討

令和7年度～

生物多様性の
価値評価手法の
基本的な考え方
(仮称)

具体的
検討の
基礎

令和8年度～（具体的検討）

環境省 × 国環研

生物多様性
メトリクス

草原 森林 農地
湿地 河川 都市

ガイダンス 基盤データ

生物多様性価値評価3点セット

活用スキーム
の実装可能性

方向性の共有
今後の体制構築

先行する取組主体・有識者、関係する企業・民間団体など

〈事務局の役割分担〉

環境省



政策的な検討

- ・検討会
- ・自然共生サイトにおける価値評価手法の試行・検証
- ・制度化の検討

国環研



定量的な評価手法の開発等

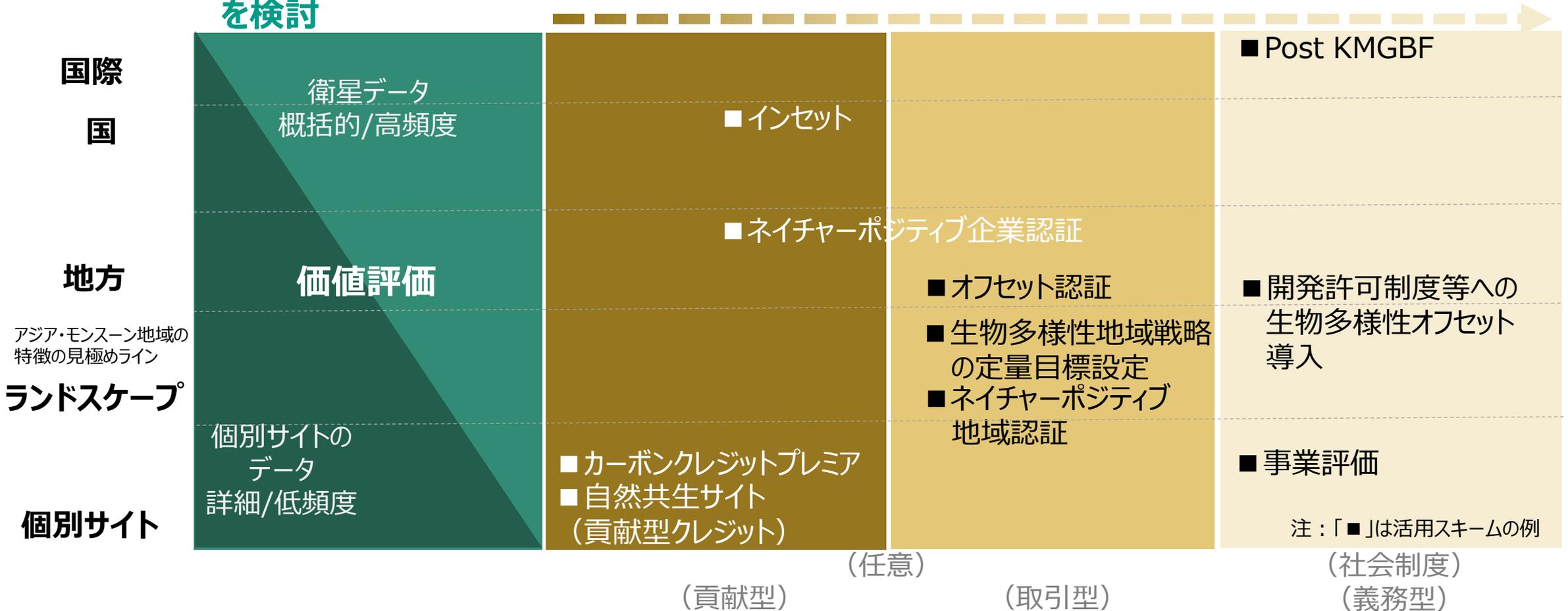
- ・生物多様性の価値評価手法（メトリクス等）の開発（R8～環境研究総合推進費）
- ・社会経済的スキームの受容性・発展性
- ・価値評価の実践による効果と課題

2. 今後の検討の全体像

- 測定にかかる技術的基礎である、生物多様性の価値評価（定量化）の手法をまずは検討する。様々な活用スキーム（貢献型クレジット、オフセット、企業・自治体の目標）への拡張可能性を持たせて設計したい。
- 国内外の状況を注視しながら実装可能な活用スキームを整理し、中長期的に制度の構築を目指す。

① 価値評価（定量化）を検討

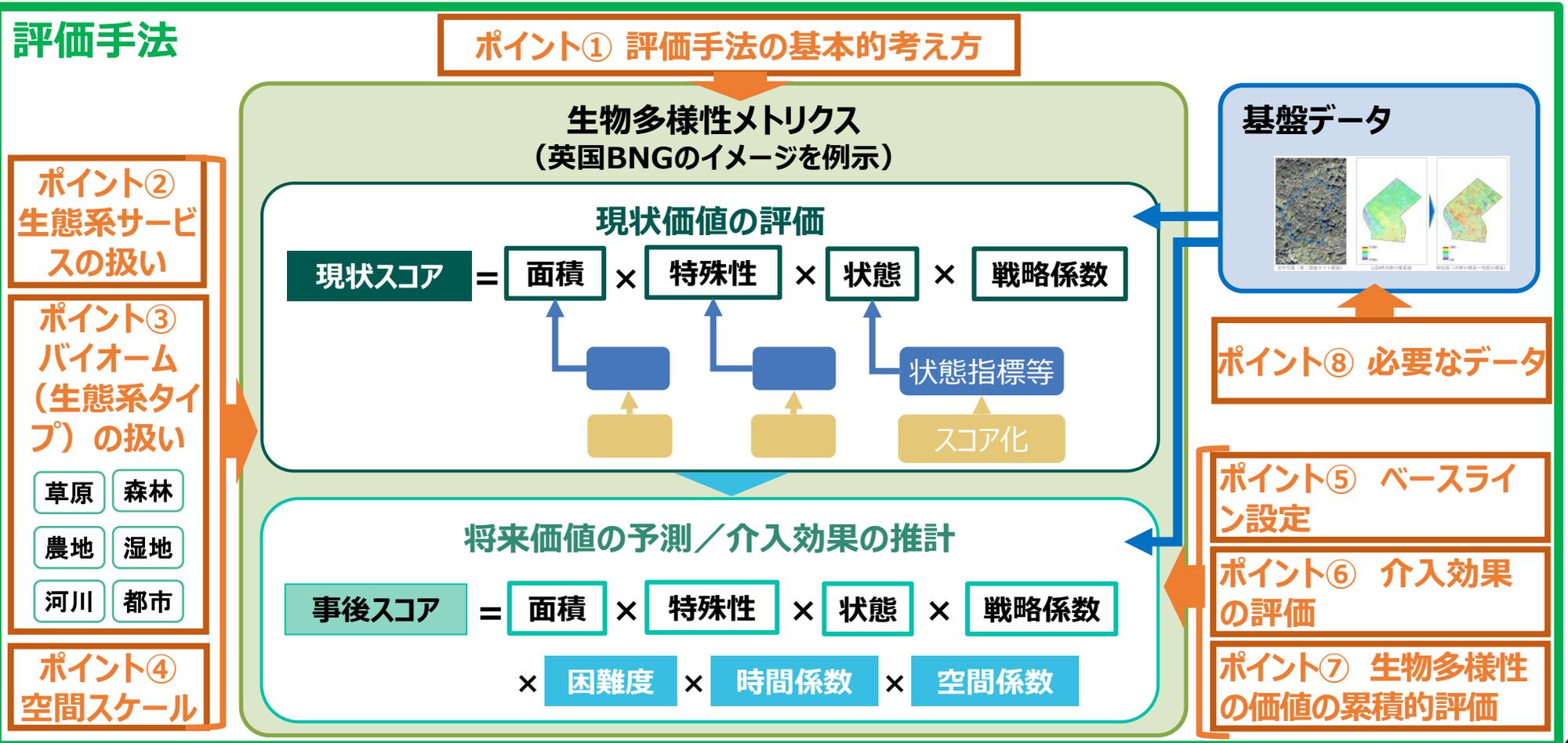
② 活用スキーム等の実装可能性を整理



3. 評価手法のイメージ

- 定量的な価値評価の手法としては、海外事例で一般的な生物多様性の量（面積等）と質（特殊性や状態等）を考慮した「生物多様性メトリクス」を用いた評価手法をイメージして検討を進めたい。
- 我が国として戦略的に対象とすべきものを踏まえ、後述の活用スキームを見据えて評価手法の各ポイントを具体化したい。

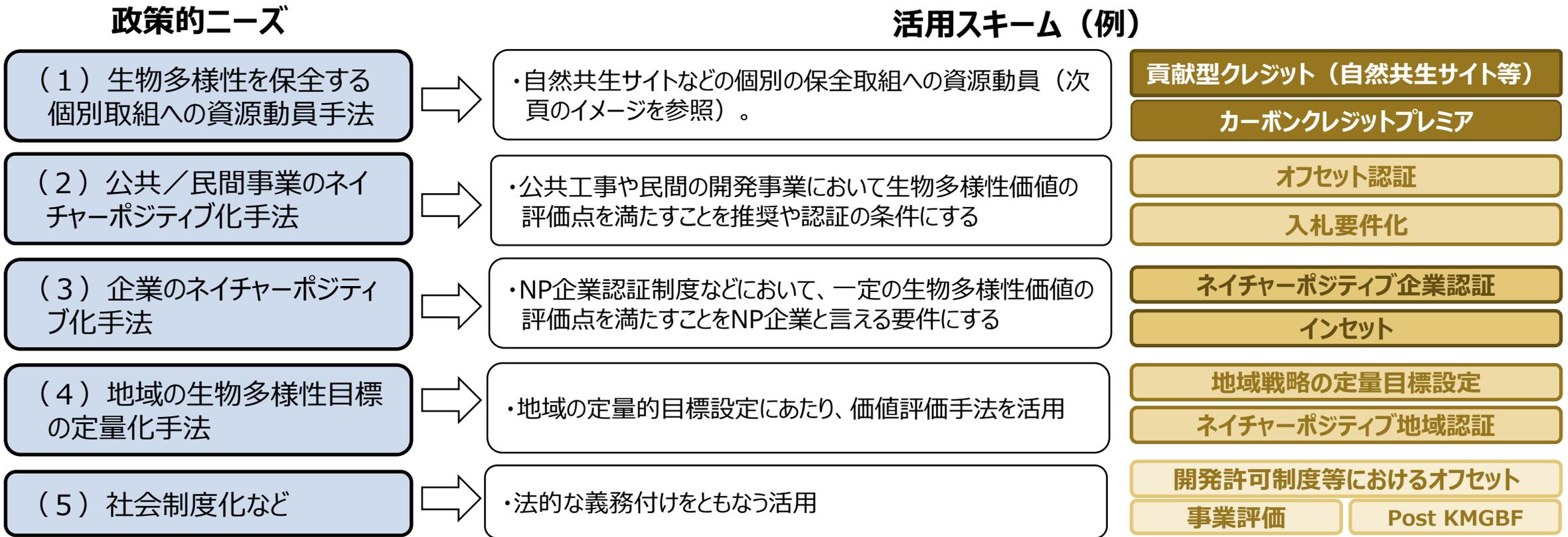
我が国として
戦略的に対象
とすべきもの



4. 活用スキームの想定

- 現時点では、政策目的に応じて様々な活用スキームを想定する。任意のものから義務的なものまで実装可能性に幅があり、価値評価の手法の開発と並行して、段階的に具体化を進める。
- 価値評価の手法（メトリクス等）は、活用スキームを想定して検討していく必要がある。

政策的ニーズからの活用スキームの整理



活用スキームの一例（イメージ）－自然共生サイトにおける貢献型クレジット

- 活用スキームのうち、まずは既に認定等の制度がある自然共生サイトを対象に、生物多様性の価値の定量的な評価とそれに基づく貢献型クレジット発行から着手し、多様な区域に拡張していくことを想定。
- 自然共生サイトには、里地里山を含む多様な生態系が含まれ、スケール感も様々であることから、日本における生物多様性メトリクスの実証という意味でも効果的と考えられる。

現行制度

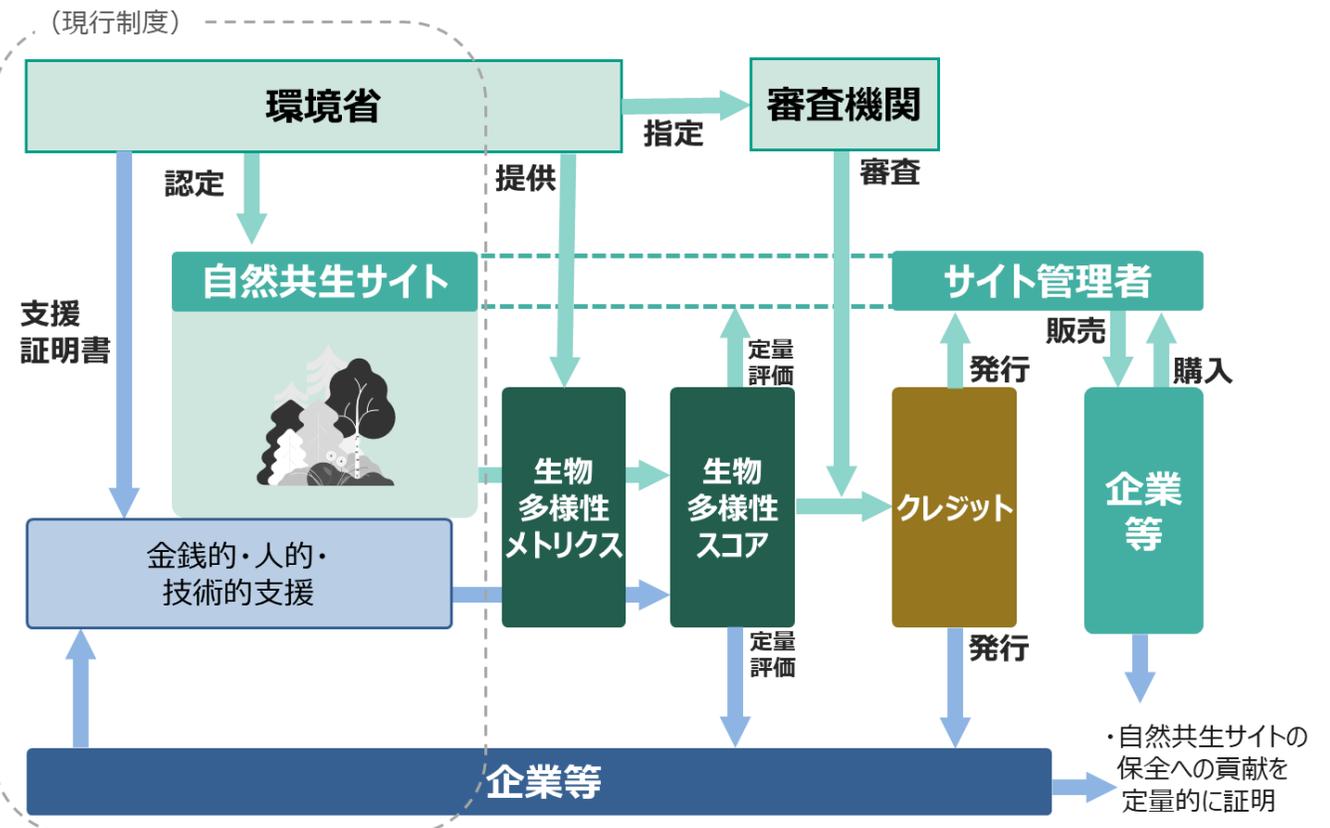
- 自然共生サイトへの支援に対して支援証明書を発行しているが、あくまで支援を行う企業等へのインセンティブとしての位置づけ。クレジット発行やその取引は行われていない。

自然共生サイトでの定量的な価値評価（イメージ）

- 生物多様性メトリクスを用いて自然共生サイトの生物多様性の価値を定量的に評価し、生物多様性スコア（仮）を算出。
- 自然共生サイトの管理者や、支援を行う企業、所在地の自治体等が、生物多様性を増進するための目標等として活用できる。

自然共生サイトでのクレジット発行（イメージ）

- 自然共生サイトの管理者や、自然共生サイトへの支援を行う企業等に対して、生物多様性スコア（仮）を反映したクレジットを発行。
- 企業等は、サイト管理者等からクレジットを購入することによって、自然共生サイトの保全への貢献を証明できる（寄付的購入）。
- 中長期的には、インセットやオフセットへの活用も想定される。



自然共生サイトでの定量的な価値評価とクレジット発行（イメージ）

- 生物多様性の価値評価（定量化）の手法をまずは検討すること。
- 「生物多様性メトリクス」を用いた評価手法をイメージして検討を進めること。
- 政策目的に応じて様々な活用スキームを想定しているが、まずは既に認定等の制度がある自然共生サイトを対象とした価値評価から着手すること。

